

あさぎり病院における コミュニケーションロボットの活用

明石市・あさぎり病院 窪谷 日奈子（医師）

当院ではコミュニケーションロボット（communication robot 以下CR）を、平成29年12月より白内障術前説明にTAPIAを、平成30年8月より硝子体注射説明にPepperを導入している。当院でのCR運用を紹介し、CRと医療スタッフによる説明に対する理解度や満足度について比較検討を行ったので報告する。

比較検討の対象は2018年5～6月に、白内障術前説明を受けた患者100名。CR説明群（C群）50名、スタッフ説明群（S群）50名。各群に術前説明を行い、説明に要した時間を測定、説明後に患者満足度5段階のアンケート調査と説明の理解度を確認するための簡易試験5題を行った。

説明時間はC群の方が有意に短かった。簡易試験の正答率は同等の正答率で、患者満足度は両群各項目とも満足が85%以上で両群間に有意差はなかった。CRによる術前説明は、スタッフによる説明と同程度の理解が得られ、CRの説明を活用することで説明内容の均質化と、医療スタッフが行うべき業務との分割が行えた。今後、業務内容を拡大していきたいと考えている。